

## 「方言」の飛び交う国会審議

松田 謙次郎(神戸松蔭女子学院大学)

### はじめに

皆さん、こんにちは。神戸松蔭女子学院大学の松田謙次郎と申します。今日はどうかよろしくお願ひいたします。

私は、国会でも方言は使われているという話を主にやってみます。こう言うと、「えっ、あの国会でも方言を使うのか」とお思いの方もいらっしゃると思います。はい、まさに方言が国会で使われております。ただし、ここで言う「方言」には3種類あります。まず皆様おなじみの地域方言です。例えば、三河や北海道、九州といった地域に独特な話し方という意味での方言です。「方言」と言った場合、これがもっともしっくりくる意味ではないかと思ひます。

それから「気づかない方言」です。これは何かというと、「自分では共通語だと思ひて日頃使っていたけれども、調べてみると実は方言だった」というものです。これは身近によく見られる現象です。研究者もいろいろな用語で呼んでいますが、ここでは「気づかない方言」と呼ぶことにします。

そして、国会でしか使われず、他のどこでも使われていないような「国会方言」があります。これも国会独自の言い方ということで、方言の仲間に入ります。この3種類が国会で方言として使われているということが、今日の話です。

さて、こうした方言が国会で使われていると言っても、まずどうやって調べるかという問題があります。テレビの国会中継をずっと見続けるというわけにも参りません。実はこれについては簡単に調べることができます。『国会会議録』という、国会の記録があるんですね。1回の国会で、通常国会は半年ほどやりますが、百科事典1セット分くらいの量の会議録ができるといわれています。国会はすでに190回ほど開かれていますので、国会会議録というのはものすごい量のものなのだとお考へください。

当然，そんな途方もなく巨大な国会会議録を人力で一つ一つ調べていくのは不可能です。現代ではこれをコンピュータで，しかもインターネットを通じてどこからでも国会会議録が検索できるようになっています。まったくありがたい時代になったものです。

## 国会における地域方言

ではまずは国会における地域方言についてお話ししましょう。国会は全国いろいろな地域から議員さんが代表として来ているわけです。しかし，国会会議録では方言を共通語に修正するという大まかなガイドラインがあります。ですから，本当は国会会議録には共通語しか出てこないはずですが，そこをすっくとぐり抜けて方言がひょっこり出てきてしまうことがあります。

地域方言がどんどんと衰退していき，全国的に共通語化がほぼ達成され，どこに行っても日本人は共通語を話すようになりました。ところが日本の政治の中心である国会では，地域方言がごくごく一部にせよ出現するという，ちょっと考えると不思議な状況があります。とは言っても，まったく理解不能な地域方言というわけではなく，地方色を残す程度の方言ということですが。

最近で言えば，財務省理財局の元局長の佐川宣寿さん，現局長の太田充さんなどが話題となりました。佐川さんは福島県の出身で，太田さんは松江市の出身です。彼らの発言については，ツイッターでも方言やなまりが出ていることを指摘されています。それでも，我々は彼らの発言を100%理解できるわけです。方言と言ってもその程度の方言です。それでも方言的な特色であることに変わりはないわけですが，こうしたものが国会会議録に出てくるわけです。

## どういう人が，いつ方言を使うのか？

では，どういう人が，いつ方言を国会で使うのでしょうか。実は，国会で発言する人はたくさんいます。議員さん，閣僚，官僚。太田さんも佐川さんも官僚でした。それ以外の一般人でも参考人や証人などという形で，国会で発言することもありま

す。最近で言えば籠池泰典さんもそうでした。

年齢層で言うと、方言を使うのは、ほぼ中高年の男性議員です。これは当たり前のことです。なぜかと言えば、国会議員のほとんどが中高年の男性だからです。国会が、その構成員という面ではものすごく偏っている場所だということです。平たく言えば、「おじさん」や「おじいさん」が圧倒的に多いということです。

ではそうした国会で、なぜわざわざ方言を使うのかといいますと、地元の人向けのアピールという一面があります。地元の支援者たちにとっては、自分たちの故郷の代表が国会という場で地元の方言で発言してくれれば、とてもうれしいですね。そこで国会で方言を使うことは、最高の地元向けアピールになるわけです。

ところで、国会には大きく本会議と委員会があります。本会議とは、大きい部屋で、立派な演壇があるところで行われる会議です。委員会は、もう少し小さな部屋で開催されます。方言が出てくる会議は、委員会がほとんどです。この本会議と委員会の違いも、方言が使われるかどうかに関わっています。

本会議は、大抵の場合は原稿を読んでいます。原稿を読むとなると方言はなかなか出ません。国会発言中は、みんな原稿を読んでいると思うかもしれませんが、これは半分正解で半分不正解です。原稿を読んでいない発言もたくさんあるからです。委員会では原稿を読まないことも多いのです。本会議では議員席から立派な演壇の前まで行き、そこでまとめて質問をして、それに対してまたまとめて大臣が答弁をするのに対して、委員会では質問をしては答弁があり、その答弁に対してまた質問をするということを制限時間内に繰り返すため、いきおい質問と答弁が活気のあるものになります。これが委員会で方言が出やすいことに繋がっていくものと考えられます。また、委員会は本会議よりも小さな部屋で開催するため、質問する議員側と答弁側の距離が比較的近いことも大きな要因です。会話をする同士の距離が近ければ、親しい口調になりがちですね。

ここで、ちょっと次の発言を見てみましょう。

ここで述べた J R 山田線というのは、よう聞いてはると言ってるんやから大臣も聞いてほしいんですけども、ここは地元の全ての自治体が、B R T は要らぬと言っているんですよ。ここは動いていないんです、B R T は。私が聞いているのは、山田線の復旧はどう指導してんのやと。つなぐと言うたんやから、つなぐという話をどないしているかと聞いているんですよ。…

[ 穀田恵二議員 ( 第 183 回衆議院 国土交通委員会第 2 号, 2013 年 3 月 15 日 ) ]

すごいですね、関西弁がバリバリです。これには続きがありますが、この続きもバリバリです。

いつから J R 東の使い者になっているのかよくわからぬけれども、地元の話もきちっと、両方言わなあかんですやん、あなた。

[ 穀田恵二議員 ( 第 183 回衆議院 国土交通委員会第 2 号, 2013 年 3 月 15 日 ) ]

発言されていたのは、穀田恵二議員です。2013 年の国土交通委員会でした。「よう聞いてはると言っとるんやから」「言うたんやから」とか、「指導してんのや」「どないしている」とか、「言わなあかんですやん、あなた」とか、関西弁がたくさん使われていた発言でした。このように、地域方言が明らかに国会で使われている例は存在するわけです。

## 国会における愛知県方言

穀田議員の例は関西弁でしたが、皆さんの地元である愛知県の方言はどうでしょうか。国会で愛知の方言といいますと、やはりこの人が出てきます。河村たかし議員ですね。

それで、国会議員とか役人というのは、むさくるしいところで、もう仕事にあくせく、どえりゃあえりゃあところで働かないかぬ。

[第 154 回衆議院国会等の移転に関する特別委員会 4 号, 2002 年 5 月 31 日]

名古屋ですと大臣とは言いませんで、でゃあじんと言いますけれども、本当にどえりゃあときになりゃあたなという感じであります。

[第 140 回参議院運輸委員会 3 号, 1997 年 2 月 20 日]

河村議員、やはり期待を裏切りません。「どえりゃあ、えりゃあ」「でゃあじん」「どえりゃあときに、なりゃあたな」ということを言うてくださるわけです。期待どおりのご活躍ですね。

これから、ごく曖昧に「愛知方言」ということで括ります。もちろん、この「愛知方言」の中には、東三河、尾張、西三河といった区別がありますが、今は全て一緒にした話をします。

さて、「しよまい」という言葉をご存じでしょうか。次の常松克安議員の発言にこの言葉が出てきます。常松議員は三重県のご出身です。

いやいや、今度の仕事はようもうかるんや、おいわかっどるか、わかっどるね、そうかと。これはしとこまい、たまにはもうけさせてもらわなあかぬ、と言いながら十社の業者が集まって、まあまあそこは黙ってお互いに一千二百万円、相当これはありがたい、平素もうからぬでこの際参加しよまい、こういうふうなことをして参加したんではなかるうかと、こういうふうな平素から持ち続けている疑惑というものが、この際ひとつこの例を通してぴたっと証拠はここに出てしまっているんじゃないかなるか、こういうふうに申し上げておるんです。いかがでしょうか。

[常松克安議員, 第 126 回参議院決算委員会 2 号, 1993 年 4 月 5 日]

同じく、「やっとかめ」という言葉を見てみましょう。これはかなり有名な方言形だと思いますが、これが国会で使われている例です。

おはようございます。久しぶりにというか、やっとかめに質問させていただきます。

[鈴木政二議員，第 140 回参議院運輸委員会 14 号，1999 年 6 月 10 日]

1999 年，鈴木政二議員の発言です。やはり委員会であることに注目しましょう。この方は，碧海郡知立町(現:知立市)の出身です。まさに愛知方言地域です。その後岡崎北高等学校をご卒業になっていて，高校までずっと愛知にとどまっていられちゃったことがわかります。

「けなるい」を見てみましょう。

それからもう一つは，常務取締役，専務取締役あるいは副社長，中には代表取締役を兼ねると，こういういわば私企業の中核的なところに入られる，つかれる，こういう場合には，単に在職中と新たに就職する企業との間に契約等の密接な関係がなければそれでいいのかという問題を少し感じました。これは，何と申しますか，のぞき趣味というか，あるいはけなるい，我々の俗語ですか，そういうやっかみということではありませんが，例えば土木建築請負業のかなり大手のゼネコンに仮に建設省の役人の方が入った場合には，一般の国民から見ると，かなりどうかなど思うことがあるんじゃないか。

[井上哲夫議員，第 120 回参議院 決算委員会閉 5 号，2003 年 6 月 5 日]

「これは，何と申しますか，のぞき趣味というか，あるいはけなるい，我々の俗語ですか，そういうやっかみということではありませんが」という形で、「けなるい」が出てきます。2003 年，井上哲夫議員です。この方は四日市市のご出身ですが，そ

の後は名古屋大学をご卒業なさいました。ここが愛知との繋がりなのではないかと思われます。

「えせん」はどうでしょうか。

それから、その方のいろいろなご意見をお伺いをすると、実は我々郵政省職員は、当時、いわゆるN T Tですか、電電公社が独立をするときに、いや、彼らの方が近代的な産業ですごいなと思って、ある程度えせんだと、こう言うんですか、うらやましく思ったんだけど、今になってみると、I T社会になってくると電話の青電話も撤去されるようになってきた。

[草川昭三議員，第162回参議院郵政民営化に関する特別委員会8号，2005年7月25日]

これは草川昭三議員の2005年の発言です。実は先ほどからお出ししている発言は、現代に近い時代のものです。つまり、最近でも愛知の方言は、国会でそれなりに出てくるといふことなんですね。この発言も13年ほど前のものです。この発言をなさった草川さんは、名古屋生まれで名古屋市立第一工業学校卒業という経歴の持ち主です。愛知方言が出てくるのも自然だということですね。

国会にも地域方言が出てくるといふことが明らかとなりました。バリバリの関西方言もありましたし、愛知の方言もいろいろと出てきました。一見すると議員は皆共通語を使っているようですが、実は地域方言が顔を出しているわけです。

### 気づかない方言

では、2つ目の方言である「気づかない方言」はどうでしょうか。愛知県出身の議員さんで、自分は共通語を話していると思っていますが、国会で思わず方言形を使っていたなどといふことはあるのでしょうか。

「気づかない方言」には、いろいろな例が報告されています。代表的な例をいく

つか出してみましよう。

九州方言・「なおす」(=共通語の「しまう」)

北海道方言・「サビオ」(=共通語の「絆創膏」)

関西方言・「カッターシャツ」(=共通語のワイシャツ)

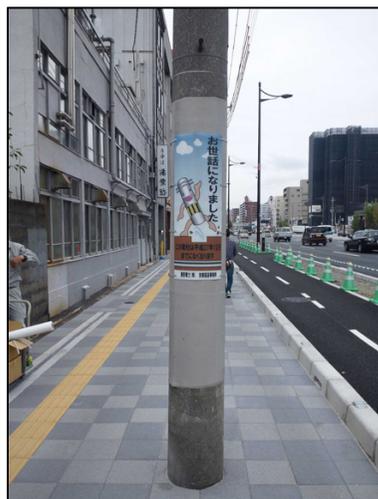
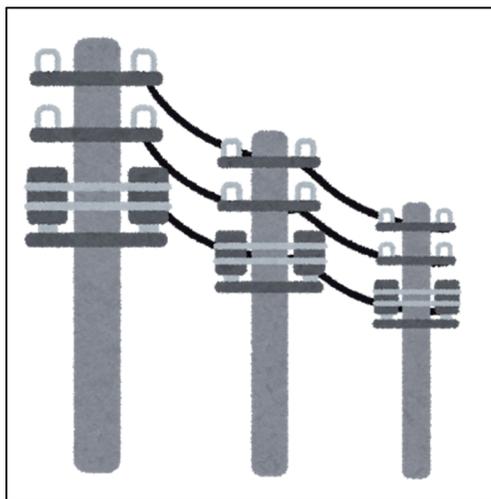
関東南部・「～じゃん」(=共通語の「でしょう」)

高知方言・「ラーフル」(=共通語の「黒板消し」)

九州方言の「なおす(=しまう)」, 北海道方言の「サビオ(=絆創膏)」。これはとても古典的な例です。関西方言の「カッターシャツ(=ワイシャツ)」, 関東南部の「～じゃん(=でしょう)」。私は東京出身なのですが, 「～じゃん」が共通語ではないと知った時の驚きは, 何とも言えないものでした。今でも個人的には「これは共通語だ」と固く信じ込んでいるのですが, 実は違うわけです。

高知方言の「ラーフル」をご存じでしょうか。「黒板消し」のことを「ラーフル」と言います。珍しい言い方ですね。高知や鹿児島, 大分でこのラーフルが使われます。もともとはオランダ語です。

さて, 突然ですがクイズです。皆さん, これは何でしょうか。



囁きがいろいろ聞こえてきますが、皆さん、これを地元の方言で「電信棒」と言いませんか。自分はこれを「電信棒」と呼ぶ、という人は手を挙げて頂けますか。(挙手) あ、いらっしやいましたね、ありがとうございます。いらっしやらなかったらどうしようかと思っておりました。共通語で「電信柱」とか「電柱」などと言いますが、愛知では「電信棒」が使われます。実際に国会での使用例があるんですね。

有線電話が繋がらないのは、電信棒が折れていますから、電気が来ませんからそれは仕方ないとしても、早いところ携帯電話だけ何とかできないのかというのが切実な願いで…

[田野瀬良太郎議員，第 177 回衆議院災害対策特別委員会 16 号，2011 年 9 月 9 日]

これは非常にいろんな面でいいような感じですけども、東京都内で電気の配線をやっている会社の方に聞いた話ですけども、地下に入れちゃうと災害時に復旧は大変難しい、どこで故障しているかわからぬと。上の電信棒だったらすぐわかる。

[高井和伸議員，第 126 回参議院通信委員会 4 号，2005 年 3 月 2 日]

最初の例は田野瀬良太郎議員の 2011 年のご発言です。たかだか 7 年前です。もう一つの方は、高井和伸議員の使用例で、これは 12 年ほど前のご発言です。これは気づかない方言なわけですが、修正されずに「電信棒」という方言形が、そのまま『国会会議録』に出てきているわけです。

念のためお二人の経歴を見てみましょう。田野瀬良太郎議員は、奈良県の出身で名古屋工業大学工学部のご卒業です。高井和伸議員は、名古屋の出身で、なんと愛知大学出身の OB です。やはりお二人とも名古屋もしくは愛知の関わりがあるわけです。そこからおなじみのある「電信棒」という気づかない方言が出てしまったのでしょうか。

ところで、先ほど、朝日先生のお話で「放課」という単語が出てきました。これとは別に、授業が終わった時間を指す言葉で、「授業後」という言い方があります。これも愛知の気づかない方言なんですね。これも国会で使われています。

授業後は、よくあります部活動に行きますね。

[斎藤嘉隆議員, 第 190 回参議院 文教科学委員会 3 号 平成 28 年 3 月 23 日]

それを見れば、先生が替わってもこの総合学習、いわゆる E S D 教育を進められるということになっておりましたし、また、授業後は先生方が集まって反省会、検討会もやっておられました。

[荒木清寛議員, 第 187 回参議院予算委員会 2 号 平成 26 年 10 月 8 日]

「授業後は先生方が集まって反省会、検討会もやっておられました」とは要するに、本当に一日の授業が全て終わった後というわけです。私であれば「放課後」と言いたくなるのですが、愛知では「授業後」という呼ぶのですね。これら 2 つの発言も委員会での発言でした。

2 つ目の荒木清寛議員のご発言は、参議院予算委員会でのものでした。予算委員会は、テレビでも中継されます。委員会としてはかなり広く豪華な部屋で行われる会議でして、また予算委員会は文字通り国家の予算に関する会議ですから、結局議員さんにとっては何でも質問できる委員会です。閣僚や総理大臣も出席するところから、予算委員会は「委員会の華」と言われています。

ここでまたお二人の経歴チェックと行きましょう。斎藤嘉隆議員は、名古屋市中村区生まれ、名古屋市立菊里高等学校、愛知教育大学を卒業というわけで、ずっと名古屋、愛知にいらっしまったことがわかります。

荒木清寛議員は岐阜県生まれです。残念ながら、荒木議員については、あまり詳しいことはわかりません。

主に愛知の方言の例をいくつか見てきましたが、国会では気づかない方言も使われていることがわかりました。おそらく、ここで扱った以外の言い方についても「実は方言でした」「共通語では使わない」という愛知の方言が、今でも国会で使われているはず。「気づかない方言」という形でも、国会は多くの方言を使っていることになるわけです。

## 国会方言—集団語の世界

それでは最後のカテゴリー、国会独自の方言、すなわち国会方言です。国会方言とは、どんなものがあるのでしょうか。日本広しといえども、あの狭い国会という場でしか使われない方言などというものがあるのでしょうか。

実は国会議員をはじめとする国会関係者(国会職員、議員秘書、マスコミの国会担当記者など)しか理解できない国会独自の表現が存在します。こうした言い方を言語学の専門用語で、「集団語」といいます。ごくごく一部の人間たちだけ、仲間内だけでしか使われず理解できない言葉のことです。

例えばデパートの売り場などで従業員がお手洗いに行く際に、仲間に「お手洗いに行く」とは言いません。お客さんの手前、直接的な言い方を控えて、仲間内だけで通じる言葉を使うわけです。集団語研究の第一人者でいらっしゃる米川明彦先生のご研究によれば、デパートによって「遠方」「さんさん」「スタジオ」「中村」など、さまざまな表現があるとされています(米川 2009)。これはデパートばかりではありません。集団で互いの結びつきが密であるような集団であれば集団語は発生します。警察にもあれば、泥棒の集団にもあります。自衛隊、小学校、クラブなどの実にさまざまな集団で、「集団語」が見られます。リアルな世界だけではありません。インターネットの掲示板でも、その掲示板の利用者にだけしか通用しない言葉が存在します(松田 2006)。まさに人生至る所に集団語ありで、いろいろなところで「集団語」が出てきます。そして国会でも集団語が発生するわけです。国会方言も「集団語」というわけです。

## テレビ入り

では国会の集団語を見てみましょう。まずは「テレビ入り」です。これは国会審議がテレビ中継されることを指す用語です。例えば「今日の審議はテレビ入りだ」というように使います。テレビが入ってくるからテレビ入りなわけですね。そう言われれば「なるほどなあ」とわかりますが、突然「テレビ入り」と言われても、国会の事情に詳しくない一般の人には何のことやらさっぱりわかりません。これが集団語たるゆえんです。

今日は、予算委員会のテレビ入り質問という貴重な機会を与えていただきました。ありがとうございました。

[渡辺猛之議員，第 190 回参議院予算委員会 10 号，2016 年 3 月 7 日]

予算委員会という国会審議の華，そこに国会集団語である「テレビ入り」が出てくるわけです。さらに，皆さんご存じのこの方も国会集団語をお使いです。

でも，どちらにしろ，そんな議論は枝葉末節な議論であって，こんな大切なテレビ入りの委員会でこうしたことばかりやっているようでは，民主党も支持率は上がらないのではないかと心配になってくるわけであります。

[安倍晋三総理大臣，第 190 回衆議院予算委員会 4 号，2016 年 1 月 13 日]

「テレビ入り」は，もはや首相にも使われているほど国会の中で一般化しつつあるということですね。安倍首相もこの発言をなさった時には，きっと『「テレビ入り」くらいは，誰でもわかるだろう』とと思っていたのでしょうか。もしくは，議論に夢中になってつい仲間内でしか使わない表現が口から出てしまったのかもしれませんが。いずれにしても，国会関係者以外のほとんどの人はまったく「テレビ入り」の意味

がわかっていなかったのではないのでしょうか。

この言葉ができあがった経緯を考えると、もともとは「テレビが入っております」という文であったと考えられます。それが名詞になって「テレビ入り」になってしまったわけです。ではなぜわざわざ名詞化するほどの必要があったのか。それは結局、テレビに映ることが、国会議員にとってすごく大事だからだということに尽きると思います。議員の地元支援者・支持者のためにも、「あっ、うちの先生が国会中継でテレビに出て発言している」というのは、非常に重要です。それは自分たちが支持している、まさにその議員が立派に国の中心で活躍していることを示すからです。絶好のアピールの機会ということですね。こういうわけで、国会議員にとって、自分が出る会議がテレビで全国中継されるかどうかということは死活問題なのです。死活問題であるからこそ、「テレビ入り」という表現が生まれてきたのではないかと考えられるわけです。

ところで先ほどの安倍首相の発言ですが、あれはいつ頃ののものだったかというところ、2016年のものでした。そうです、「テレビ入り」は新しい国会集団語なんですね。そこで「テレビ入り」が国会会議録に登場した回数とその時期をグラフにしてみました(図1)。●印が使われた回数で、曲線はその大まかな傾向を捉えた曲線とお考えください。縦軸が登場回数、横軸がその時期です。多少のこぼこはありますが、「テレビ入り」が確実に増えていることはわかります。また、2004年くらいに誕生して以来、うなぎ登りに急増中であることもわかります。「テレビ入り」は国会でどんどん使われるようになってきているわけです。まさに現在進行中の変化、国会で絶賛増殖中の表現なのです。

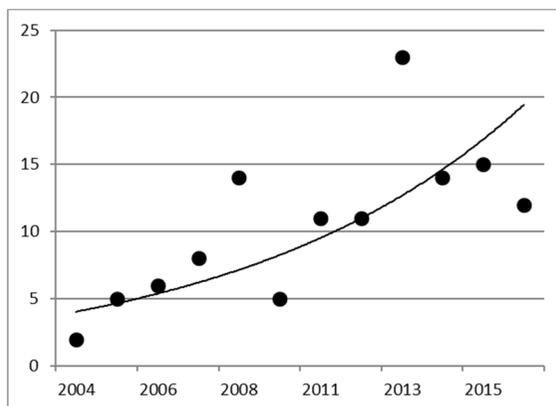


図 1 国会会議録における「テレビ入り」の増加

### お経読み

国会集団語の 2 つ目は「お経読み」です。これこそわけがわかりませんね。国会で誰かが突然亡くなったわけではありません。もちろん「国会議員全員でお経をあげましょう」ということでもありません。これは担当大臣が国会に提出した法案の趣旨説明をすることを指します。これはとても一般の人には理解不可能です。しかし、国会議員は、このような表現を使うわけです。さらに言うと、国会での質問や答弁で、こうした国会集団語を使ってしまうわけです。これも言うてみれば、気づかない方言ですね。国会議員たちは、「国民の皆さんもこの言い方をわかっているだろう」「みんな、知っているのだろう」と信じ込んでいますが、実は国会関係者だけの「集団語」、つまり、国会方言だということです。

「お経読み」は次のような形で使われていました。

先日、大臣から丁寧にゆっくりとお経読みをしていただきましたので、今日は私の方からじっくりと質問をさせていただきたいと思います。

[高橋千秋議員，第 154 回参議院総務委員会 14 号，2002 年 4 月 25 日]

「先日、大臣から丁寧にゆっくりとお経読みをしていただきました」と述べていますが、先ほども申しましたように、もちろんこれは、別に大臣にお経を読んでも

らったわけではありません。ではなぜ大臣による趣旨説明のことを「お経読み」と言うのかといいますと、このような場では大臣は原稿を読むわけです。長い長い法案の趣旨説明、「なぜこういう法案を出しているのか」「この法案はどのような法案なのか」ということを読んでいくわけです。不謹慎ですが、聞いている方は退屈になってしまいます。眠気を誘うような単調な感じの読み上げ方から、「お経読み」という名前が付けられたようです。

この「お経読み」の実例で、非常におもしろいものがあります。小野清子国家公安委員長による発言です。

私も最初、国会議員になりましたときに、お経読みというのは何なのか、本当にびっくりいたしました。先生今おっしゃいましたように、この法案を出す提案理由というものをコンパクトにまとめて、それを皆さんにお話しするというのがお経読みと国会の中で言われている言葉の意味合いだと感じております。

[小野清子国家公安委員長，第 159 回参議院内閣 委員会 6 号，2003 年 3 月 30 日]

これは国会での「お経読み」という言葉の説明をしたという珍しい答弁です。これでわかるとおり、この方も議員になるまで「お経読み」という言葉を知らなかったということが、この答弁からわかってしまいました。議員になる前はわからなかったというのは、まさにこれが議員や国会関係者にしか通用しない表現だからだということです。ですから「お経読み」も国会方言の一つだということになります。

日本には国会の他にも地方議会があり、都道府県、さらにその下の市町村レベルでも議会があります。こうした議会で広く使われる「議会方言」というものもあります。例えば、「いたさせます」という表現がその一例です。「職員に～をいたさせます」「集計をいたさせます」というように使います。「いたします」(謙讓語) + 「させる」(使役) + 「ます」(丁寧語)、これらを全て連結して「いたさせる」という表

現になるわけです。説明されれば理解できますが、突然これを言われたら、言われた方は面食らってしまいそうです。これも一種の集団語であり、国会方言であるわけです。

「いたさせます」は議会では議長がよく使います。国会ばかりでなく、地方議会でも使われます。方言ですが、もちろん地域方言ではありませんあくまでも国会という場、もしくは特定地方議会のその場で繋がった人々の間で使われる方言だということです。

## まとめ

長々と話してきましたが、そろそろまとめましょう。およそ方言とは縁のなさそうな国会でも、方言が使われていました。地域方言もありましたし、気づかない方言もありました。さらに国会という場の独自の方言もありました。気づかない方言には愛知方言もありました。国会方言には「テレビ入り」のように現在増加中のものもありました。

本日お話ししたことは、全て『国会会議録』で調べたものです。もちろん、紙で調べたわけではありません。冒頭で触れましたように、インターネット上で公開されている会議録を調べました。いとも簡単に欲しい情報が出てきます。国会ではビデオもインターネットで公開しております。最近では、このように国会で発言された内容が、簡単に取れるようになりました。言語研究者にとっては非常にありがたいことです。

なお、一言だけ付け加えますと、国会や議会での発言は速記や音声自動認識によって書き取られますが、それがそのまま会議録に出てくるわけではありません。その間の過程で、「整文」、つまり文を整える作業が入ります。議員さんの発言には、言い直し、言い誤り、繰り返し、また「あー」とか「あのー」といった、フィラーと呼ばれる表現も含まれています。最初の方で、方言を共通語に修正するという大まかなガイドラインに触れましたが、これはまさに整文の方針のことを指しています。こうしたものを全て取り入れてしまうと、会議録はとんでもなく読みづらい記録に

なってしまいます。会議録は記録ですが、同時に読みやすいものであって欲しいわけです。そこで、日本語の文章として読みやすいものに整えることになるわけです。

もちろん整文によってもととの発言の意図が変わってしまうようなことがあってはなりません。これはまさに改竄となってしまいます。元の発言意図を損なわずにできるだけ忠実に、それでいて日本語として読みやすい記録にする、これが整文の基本姿勢です。

ただし、整文は言語学者にとってはあまりありがたいものではありません。言語学者は、あくまで話されたそのままの記録が欲しいからです。この点で、整文が施されている会議録は、発言の記録としてはやや問題があることになります。ここで活躍するのが国会審議の中継や、インターネットで公開されている審議映像のビデオなんですね。これらと会議録を対照すれば、実際の発言のどこがどのように手直しされているのかが一目瞭然です。現代のテクノロジーは、こうして言語研究にとっても役に立ってくれているわけです。

さて、次の二階堂先生のお話では、地方議会の話もありますが、地方議会も国会と同じように、話していることの記録が簡単に取れるようになってきております。今後会議録は、言葉の研究にますます使われるようになってくるはずです。そして、国会や地方議会で使われる言葉の研究を通して、言葉一般の法則であるとか、言葉の変化のメカニズム、また方言の実態などがわかってくると思います。私の拙い話から、そのことが少しでもおわかり頂ければ幸いです。

ご清聴くださり、ありがとうございました。

**【参考文献】**

松田謙次郎（2006）

「ネット社会と集団語」『日本語学』第25巻10号, pp. 25-35.

米川明彦（2009）

『集団語の研究 上巻』東京堂出版.

**【付記】**

電柱画像は以下から使わせていただきました。

「かわいいフリー素材集 いらすとや」

([https://www.irasutoya.com/2014/09/blog-post\\_95.html](https://www.irasutoya.com/2014/09/blog-post_95.html))

国土交通局近畿地方整備局ウェブサイト

([https://www.kkr.mlit.go.jp/road/sesaku/non\\_pole/qgl8vl0000006jx3-img/05image01.jpg](https://www.kkr.mlit.go.jp/road/sesaku/non_pole/qgl8vl0000006jx3-img/05image01.jpg))